

2019年3月期 第2四半期累計期間の業績（連結）について

1. 売上収益

当第2四半期連結累計期間の売上収益は前年同期比230億円（18.9%）増の1,444億円となりました。

売上収益の内訳は、製品売上が前年同期比76億円（7.9%）増の1,050億円、ロイヤルティ・その他が153億円（63.3%）増の394億円となりました。

ロイヤルティの内訳ですが、BMS社からのオプジーボに係るロイヤルティが101億円（56.5%）増の281億円、メルク社からのキイトルーダの売上に係るロイヤルティ収入が30億円増の56億円となりました。

<主要製品の状況について>

- ・「オプジーボ点滴静注」については、4月に約24%の薬価改定の影響を受けましたが、一昨年に効能追加された腎細胞がん、頭頸部がん、昨年度に効能追加された胃がん等への使用が拡大したことにより、前年同期比48億円（11.9%）増加の454億円となりました。なお、数量ベースでは40%強の増加となります。
- ・グラクティブ錠については、薬価改定の影響（50mg錠で4.2%）に加え、週1回投与製剤や合剤との競合がさらに激化していますが、ほぼ横ばいの137億円となりました。
- ・オレンシア皮下注は、前年同期比18億円（26.8%）増の86億円と堅調に推移しています。
- ・フォシーガ錠は、前年同期比17億円（33.1%）増の70億円と、想定以上に堅調に推移しています。
- ・イメンドカプセル／プロイメンド静注用は、前年同期比3億円（6.6%）増の53億円となりました。
- ・リバスタッチパッチは、ほぼ横ばいの45億円となりました。
- ・カイプロリス点滴静注用は、前年同期比1億円減の26億円と、やや進捗が遅れています。
- ・パーサビブ静注透析用は、前年同期比13億円（98.8%）増の27億円と、引き続き堅調に推移しています。
- ・オノアクト点滴静注用は、約25%の薬価引下げの影響があり、前年同期比5億円（19.6%）減の22億円となりましたが、通期予想の40億円に対しては堅調に推移しています。
- ・ステーブラ錠は、前年同期比2億円（9.0%）減の19億円となりました。

<長期収載品について>

薬価改定や後発品使用促進策の影響を受け、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」が前年同期比 20 億円減の 55 億円、骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」が 10 億円減の 44 億円、気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」が 5 億円減の 19 億円、「オノンドライシロップ」が 3 億円減の 12 億円となりました。

2. 営業利益

営業利益は前年同期比 84 億円（31.2%）増の 352 億円となりました。

- ・売上原価は、製品商品の売上の増加に加え、IFRS 第 15 号の適用に伴う影響 52 億円により、前年同期比 111 億円（36.5%）増加の 416 億円となりました。
- ・研究開発費は、オブジーボ関連費用や創薬提携に係るライセンス料が増加したことにより前年同期比 16 億円（5.2%）増加の 330 億円となりました。（通期計画の 700 億円に対する進捗は 47.1%）
- ・研究開発費を除く「販売費及び一般管理費」は、「オブジーボ」や「フォシーガ錠」などの主要新製品に係る営業経費が増加したことにより、前年同期比 16 億円（5.0%）増加の 342 億円となりました。（通期計画の 690 億円に対する進捗率は 49.6%）
- ・その他の収益が 5 億円、その他の費用が 9 億円となりました。

以上のことから、営業利益は前年同期比 84 億円（31.2%）増の 352 億円となりました。

3. 税引前四半期利益

営業利益が前年同期比 84 億円（31.2%）増の 352 億円となり、金融収支が前年同期比 2 億円増の 18 億円となりましたので、税引前四半期利益は前年同期比 85 億円（30.0%）増の 369 億円となりました。

4. 四半期利益（親会社所有者帰属分）

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、税引前四半期利益の増加に伴い、前年同期比 76 億円（36.0%）増の 288 億円となりました。

2019年3月期の業績予想（連結）について

1. 売上収益

長期収載品を丸石製薬株式会社へ譲渡したことに伴う収益を計上したことに加え、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社およびメルク社からのロイヤルティ収入が期初予想を上回る見込みであり、「ロイヤルティ・その他」を710億円から740億円に修正。これに伴い、売上収益を期初予想の2,770億円から30億円上方修正し、前期比182億円（6.9%）増の2,800億円を予想しています。

<個別製品について>

上期の進捗状況等を踏まえ、「オレンシア皮下注」および「フォシーガ錠」の予想を上方修正しました。「オレンシア皮下注」は期初予想の165億円から5億円上方修正し170億円とし、「フォシーガ錠」も期初予想の130億円から15億円上方修正し145億円としました。

その他の新製品の進捗はほぼ計画通りであり、通期計画に変更はございません。

なお、「オブジーボ点滴静注」は、8月に悪性胸膜中皮腫、イピリムマブとの併用による腎細胞がん1stラインなどの効能追加があり、数量ベースでは増加するものの、固定用量の承認取得に伴い11月1日から100mg、20mgの薬価が見直されるため、売上見込みは期初予想の900億円から変更しておりません。

その他、「グラクティブ錠」は、前期比14億円（5.1%）減の260億円、「イメンド／プロイメンド」が6億円（5.5%）増の105億円、「リバスタッチパッチ」は1億円（1.3%）増の90億円、「カイプロリス点滴静注用」は10億円（17.4%）増の65億円、「パーサビブ静注透析用」は21億円（60.4%）増の55億円、「オノアクト点滴静注用」が16億円（28.8%）減の40億円、「ステープラ錠」が6億円（15.3%）減の35億円を予想しています。

<長期収載品について>

引き続き後発品使用促進策の影響を受けていることから、概ね20%台半ばの減収を見込んでいます。具体的には、「オパルモン錠」が39億円（26.9%）減の105億円、「オノンカプセル」が10億円（17.6%）減の45億円、「オノンドライシロップ」が8億円（25.0%）減の25億円、そして「リカルボン錠」は34億円（31.3%）減の75億円と予想しています。

2. 営業利益

営業利益は、期初予想の 615 億円から 20 億円上方修正し、前期比 28 億円（4.6%）増の 635 億円を予想しております。

- ・売上原価は、期初予想 760 億円から 10 億円プラスの、前期比 116 億円（17.8%）増の 770 億円を見込んでいます。
- ・研究開発費は、オブジーボへの開発投資を含め、持続的成長を実現すべく積極的な投資を行うため、前期比 12 億円（1.7%）増の 700 億円を見込んでいます。（期初計画から変更なし）
- ・「研究開発費を除く販売費及び一般管理費」は、オブジーボ関連の営業経費の増加などにより、前期比 9 億円（1.4%）増の 690 億円を見込んでいます。（期初計画から変更なし）
- ・「その他の収益」は、前期比 23 億円（69.3%）減の 10 億円を見込んでおり、一方で「その他の費用」も前期比 6 億円（29.9%）減の 15 億円を見込んでおります。

3. 税引前当期利益

営業利益が前期比 28 億円（4.6%）増の 635 億円となり、金融収支を前期比 3 億円増加の 35 億円程度と見込むことから、税引前利益は前期比 31 億円（4.8%）増の 670 億円を予想しております。

4. 当期利益（親会社所有者帰属分）

税引前利益の増加に伴い、法人税等の税金費用は 14 億円増の 149 億円を見込んでおり、親会社の所有者に帰属する当期利益は前期比 17 億円（3.4%）増の 520 億円を予想しております。

<今後の財務方針に関して>

政策保有株式に関する方針として、今後資本効率の更なる向上やコーポレート・ガバナンス・コードを巡る環境の変化に鑑み、取引関係や保有に伴う便益、リスク等を総合的に勘案した上で、対話により投資先企業の理解を得つつ、縮減を進めてまいります。

具体的には、今後3年間で2018年3月末に対して、約30%相当の政策保有株式を縮減する予定です。

また、資金配分についても、持続的な成長に向けて、研究開発投資・設備投資等を含む成長投資に軸足をおきつつ、安定的な配当と機動的な自己株式取得を進めていきます。

<配当について>

今年度の中間配当金は、期初予定通り1株当たり22.5円とさせていただきます。また、期末配当金については、1株当たり22.5円とさせていただく予定にしております。